

授業づくりのポイント

- 毎月実施する「避難訓練」や避難訓練と合わせて実施する「消火器体験・起震車体験・煙体験、応急処置の仕方」などの体験的な活動を、実際に発災した場面を想定し、活用できるようにする。
- たてわり班で話し合いながら学習する場を設定し、「伝え合い、認め合い、高め合う」活動を充実させる。

単元について

1 題材名 「たてわり班で協力しながら防災を学ぶ」

2 目 標

Ⅲ-2 地震災害時の安全

地震発生時の危険と適切な対処について理解し、安全な行動ができるようにする。

3 教材化の視点

本校の学区は大きな川に隣接するとともに、木造住宅密集地域（木密地域）が多く、大地震発生時は建物の倒壊や延焼など様々な危険が予想される。いつ、どこで起こるか分からない地震とそれに伴う火災などから、児童自らが判断し、多くの人たちと協力しながら、危険を回避し安全な行動をとれるようにする必要がある。

今回の学習では、これまでの体験的な活動やDVDの視聴などの防災教育で学習してきた内容を振り返りながら、防災ボードゲームである「いえまですぐらく」（日本赤十字社）を活用して、災害時の状況を疑似体験し防災の知識を学ばせる。また、本校の特別活動の研究テーマである「伝え合い、認め合い、高め合う」姿も追究していく。

指導計画（1時間扱い）

時間	○主な学習活動	◎安全教育の視点に立った留意点
避難訓練 ①	○火災を発見した時にどのように対処するかを学ぶ。 ○消火器の使い方を体験して学ぶ。	◎近くの大人に知らせて、すぐに助けを求める大切さを確認する。 ◎初期消火の重要性を理解させる。
避難訓練 ②	○起震車で実際に起きた地震の揺れを実体験する。	◎大きな揺れを体験させることで、建物の倒壊にもつながる地震の怖さを実感させる。
避難訓練 ③	○延焼シミュレーションで火災の怖さを知る。 ○煙体験を通して、煙が発生している建物内での避難の方法を学ぶ。 ○これまでの避難訓練で学習した内容をワークシートで振り返る。	◎近隣地域の危険性を理解させる。 ◎煙の有害性を伝え、安全な避難の方法を理解させた上で、取り組ませる。 ◎初期消火体験、起震車体験、煙体験で学んだことをまとめさせ、防災意識を高める。
避難訓練 ④	○大きな被災状況を想定し、学校から近くの広域避難所まで避難する。	◎避難の際は、たてわり班の形で避難させ、上級生が下級生の手を引いて避難できるようにする。
授業 1 (本時)	○大地震によって想定される被害状況について消防署の方から話を聞く。 ○防災ボードゲームの体験を通して災害時の状況を疑似体験する。	◎大震災発生後の被害状況や、避難の仕方について確認する。 ◎実際に自分自身が災害時に避難する場面を想定して取り組むように、声を掛ける。

指導事例（第1時／1時間）

1 ねらい

- ・大地震発生時の危険について理解し、自ら判断して身を守り、適切な行動がとれるようにする。
- ・話し合いを通して、望ましい人間関係を形成するとともに、自主的・実践的な態度を育てる。

2 ポイント

- ・防災ボードゲームで災害を疑似体験させ、実際の避難場面を想定させる。
- ・たてわり班で話し合い、お互いの意見を尊重し、協力しながら各々ゴールを目指させる。

3 指導の実際

	○主な学習活動	◎支援・留意点 ■評価（評価方法）
導入	○本時の流れの説明を聞く。 ○消防署の方から、大地震発生時に想定される被害状況と避難方法（一時集合場所、広域避難場所）の説明を聞く。	◎事前に学習したワークシート等を持参させる。 ◎人ごとではなく、身近で起こりうる状況として捉えられるようにする。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">地震が起きた時に、安全な場所までどのように避難するのか考えよう。</div>	
展開	○防災ボードゲームのルールや進め方を聞き、理解する。 ○防災ボードゲームを行い、災害を疑似体験する。 ○高学年を中心に、たてわり班で話し合い、低・中学年と協力しながら、個々にゴールを目指す。 	◎教員は、様子を見ながら十分理解できるように声掛けを行う。 ◎教員が、適宜声掛けを行い、円滑にゲームが進められるようにサポートする。 ◎教員は、各班を周りながら声掛けを行い児童一人一人が自分で考え、判断し発言できるように助言する。 ■ボードゲームを通して「伝え合い、認め合い、高め合う」など自主的・実践的な話し合いができる。（観察）
まとめ	○分かったこと・気付いたことをたてわり班で話し合いながら、班としての考えをワークシートにまとめる。 ○各班より発表させ、災害への思いを共有させ、班のワークシートを仕上げる。	■大地震発生時の状況や危険について理解し、安全な避難の方法について考えることができる。（ワークシート） ◎地震発生時に予測される危険と、その危険を回避する方法を中心に話し合うように声掛けをする。

児童の感想

- ・今日はゲームだったから、みんなで協力しながら楽しく取り組めて判断できたけれど、もし本当に大きな地震が起きても落ち着いて行動できるように準備しておきたい。
- ・日頃何気なく通っている道でも、大きな地震が起こった時の建物の状況などをイメージして安全に過ごせるようにしたい。

児童の変容

- ・ボードゲームを通して、実際の場面を想定しながら大地震発生時の状況や危険について理解することができた。また、様々な場面で意見を出し合い、積極的に話し合うことで、他人任せではなく、自ら判断して自分の身を守る意識をもつことができた。
- ・友達と協力しながら安全な場所まで避難する方法を学ぶことで、自助だけではなく、共助の意識を育むこともできた。

「防災プランをつくろう」自分たちができる防災活動を考える学習の事例

災害

小学校 第5学年 各教科等（総合・国語・理科）

授業づくりのポイント

- 地域で必ず起こるであろう噴火や土砂災害などの災害に対する防災意識を高めるために、実際に被災したときの体験談をインタビューしたり、町の防災に関わる方々から直接対策を聞いたりするなどして、人との関わりを重視した体験活動を充実させる。
- 自助・共助・公助の視点から、自分たちができることを考え、まとめ、伝えていくことで地域の防災意識の向上も目指す。

単元について

1 題材名「防災プランをつくろう」

2 目標

Ⅲ-2 地震災害時の安全

Ⅲ-3 火山災害時の安全

Ⅲ-4 気象災害時の安全

Ⅲ-7 災害への備えと安全な生活

- ①島で起こりうる災害について理解し、防災への意識を高める。
- ②災害への正しい対処方法を知る。
- ③災害に対して、自分がどう対処すればよいか考えて、伝えることができる。

3 教材化の視点

火山や海と共に生活している島の子供たちにとって、防災は切っても切り離せないものである。特に、5年生では、国語や理科などで防災に関する内容について学習することが多い。各教科等で別々に学習するのではなく、カリキュラムマネジメントを行い、教科等横断的な防災教育を計画し、実践することとした。

指導計画（35時間扱い）

時間	○主な学習活動	◎安全教育の視点に立った留意点
課題① 15	<ul style="list-style-type: none"> ○島で起こりうる災害と防災・減災対策を考える。【課題の設定】 ○災害を体験した保護者や親類、博物館の学芸員から話を聞く。【情報の収集】 ○集めた情報から発表に必要な情報を選び、整理する。【整理・分析】 ○自分たちができる防災活動をまとめ、インタビューをした保護者に向けて発表する。【まとめ・表現】 	<ul style="list-style-type: none"> ◎自分たちで災害への対処の仕方を具体的に考えさせる。 ◎被災したときの体験談を聞くことで、災害への実感をもたせる。 ◎児童が集めた情報は教室に掲示しておき、お互いにいつでも確認できるようにする。 ◎自分たちが学習したことを伝えることで、発表を聞いてくれた方の防災・減災の意識を高められるようにする。
課題② 15	<ul style="list-style-type: none"> ○発表を振り返り、次回の発表への計画を立てる。【課題設定】 ○防災・減災対策における課題を話し合い、調べる。【情報の収集】 ○発表に必要な情報を選び、整理する。【整理・分析】 	<ul style="list-style-type: none"> ◎自分達で学習したことを伝えることで、伝えられた方々の防災・減災の意識を高めることができたかを振り返り、次回の発表への改善策を話し合わせる。 ◎「3.11を忘れない」「防災ノート」などの資料を準備して、活用できるようにする。

	○自分たちにできる防災・減災対策や明確になった課題に対する取組を、自分たちの防災・減災計画『防災プラン2018』にまとめ、教えてくださった方々を招き、計画を発表する。【まとめ・表現】	◎聞き手の防災・減災意識を高められるように防災・減災対策のキャッチコピーを考えるなど、工夫してまとめるように声を掛ける。
課題③ 5	○『防災プラン2018』をさらに多くの人たちに知ってもらう方法を考え、実行する。(例：港や公民館、飛行場に資料を置いたり発表に行ったりする。)【課題設定】	◎『防災プラン2018』を読んだ人が感想を書ける用紙を準備しておき、児童にフィードバックできるようにする。

指導事例(第28時/35時間) 課題②の【整理・分析】

1 ねらい

- ・伝える相手や目的意識を明確にして、グループで伝える工夫をしながら、防災計画をまとめることができる。

2 ポイント

- ・自助・共助・公助の視点から、自分たちにできること・聞いてくれる人に伝えたいことをまとめることで社会貢献につながる価値のある大切な作業であることを意識させる。
- ・他教科との関連を生かし、国語の「書く」単元や算数の円グラフ・帯グラフを活用した「まとめのために使えるわざ」を掲示する『言語わざコーナー』を教室内に設ける。

3 指導の実際

	○主な学習活動	◎支援・留意点 ■評価(評価方法)
導入	○本時の学習活動を確認する。 ○本時のめあてを学級で話し合い、めあてを立てる。	◎どんな防災・減災計画にするか話し合わせることで、児童の目的意識を焦点化させる。 ◎調べたこと・考えたことを伝えることが地域の防災・減災活動になり、社会貢献にもつながることを確認させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> みんなの防災意識を高める『防災プラン2018』をまとめよう </div>		
展開	○グループでまとめ方の工夫を話し合い、防災・減災計画をまとめる。 	◎内容に合わせてまとめ方を工夫できるように『言語わざコーナー』を活用させる。 ■伝えたい内容によって、表現方法を工夫しながら防災・減災計画をまとめることができる。(観察・発表用紙)
まとめ	○学習の振り返りを行い、次時の予告をする。	◎振り返りでは、グループのまとめ方の工夫を紹介し合う。その後、学習計画を確認することで、作業の見通しをもたせる。

児童の感想

- ・大人任せにするのではなく、自分たちにできる防災を考えることが大切だと感じた。
- ・自分たちが行動することで、大人の意識も変わっていくことを実感した。伝えていくことでみんなの防災意識を高めていきたい。

児童の変容

- ・噴火や土砂災害など大きな災害に見舞われてきた地域で育っている本校の子供たちだが、災害を体験した方へのインタビューや地域の防災に関わる方々に話を伺う中で、災害の恐ろしさ、防災の必要性を実感し、防災への意識が高まっていった。
- ・自助の意識だけでなく、共助や公助の重要性にも気付くことができた。将来自分たちが地域をリードしていくためにどんなことができるか考え、地域に発信することができた。

授業づくりのポイント

- 受動的に取り組む防災活動ではなく、主体的に取り組む防災活動を目指して指導を行った。避難所生活において、地域の一員として何ができるかを考えさせる場面を計画し、地域防災に貢献しようとする態度を育みながら、自己有用感を高める活動を設定した。
- 地域の防災訓練に参加した生徒に中心的な役割を与え、リーダーシップの育成を目指した。

単元について

1 題材名「中学生として避難所でできること」

2 目標

Ⅲ-6 避難所の役割と貢献

災害発生時における避難所の役割とそこでの生活を理解し、自分にできることを実行しようとする。

3 教材化の視点

避難所の運営は、避難してきた人々が協力して運営していかなければならない。本校も、地域における避難所に指定されており、中学生の活動に対しては、多くの期待が寄せられている。避難生活中に、自分の家族や地域のためにできることを考える学習を通して、地域の防災活動に積極的に取り組むことができる生徒を育てたい。

指導計画（4時間扱い）

時間	○主な学習活動	◎安全教育の視点に立った留意点
1	○「災害時に避難所で起きうるトラブルについて知る」 4コマ漫画教材を使って避難所運営のシミュレーションを行い、避難所トラブルの対応を班ごとに考える。	◎避難所で起きうるトラブルを知ることにより、災害時に自分たちが取り組むべきことや、手伝えることが明確になるように指導する。
2	○「災害時の自分たちの状況を想像する」 ①学校で大きな地震が起きたとき ②保護者が駆けつけられないとき ③ガス・水道が止まったとき	◎災害時に、どのようなことが想定されるのか考えさせ、自分の事として捉えさせる。また、自助の視点から、どのようなことができるかよいのかを考えさせるとともに、家族の一員としての役割も考えさせる。
3 (本時)	○「避難所で何ができるかを考える」 学校が避難所になった場合、中学生として何ができるかを考え、「できますゼッケン」に記入する。	◎避難所の役割を確認し、共助の視点から、中学生として地域の避難生活にどのようなことで貢献できるのかを考えさせる。
4 (本時)	○「できますゼッケンの発表」 3時間目で作成したゼッケンの発表を通して、避難所での中学生の役割を考え、地域防災のためにできることを考える。	◎災害時にも共助の視点から地域に貢献できる方法を考えさせ、地域防災を担う一員としての自覚が高まるように指導する。

指導事例（第3時と第4時／4時間）（第3時間目：体育館、第4時間目：各教室）

1 ねらい

- ・中学校が避難所となった時、地域の一員である中学生に何が必要とされているのかを知り、自分が取り組むべきことを考える。

2 ポイント

- ・避難所の運営には、中学生の力が期待されていることを実感させたり、中学生として貢献できることを考えさせたりすることで、自己有用感を高め、地域のために活動しようとする態度を養う。

3 指導の実際（T1：大学教授、T2：本校教員、T3：研究室大学院生）

時	○主な学習活動	◎支援・留意点 ■評価（評価方法）
3時間目（体育館） 展開1	<p>○前時までの学習を振り返り、本時のねらいを知る。</p> <p>ねらい：避難所で必要とされる事を知り、自分ができていることを考える。</p>	<p>◎前時までのワークシートをもとに災害時の状況を振り返らせる。</p>
	<p>○実際に起きた災害や避難所の映像を見て、自分の身の回りで大きな災害が起きたらどのような生活になるのか考える。</p> <p>○避難所の開設、避難生活中に必要なこと、困ること、人手が欲しいことなどはどんなことか考える。</p> <p><発問> 避難所にはどのような人がいるのか、その人たちはどのようなことを必要としているのか考えてみよう。</p> <p>○「できますゼッケン」について説明を聞き、「できますゼッケン」ワークを進める。</p> <p>○自分が避難所運営のためにできることを決定し、ゼッケンに貼り付ける用紙に記入する。</p> 	<p>◎地震と震災の違いを強調し、震災は小さくできることを再確認させる。</p> <p>◎「地元で仕事をする人が少ない」「避難が始まった際に人手が少ない」といった地域の特性を確認しながら、避難所運営には中学生の力が必要であることを伝える。</p> <p>◎ワークの進め方について説明する。（正解がないこと、アイデアを否定しないことを伝える。）</p> <p>◎ワークシートをもとに班長に話し合いを進めさせる。（T2、T3は班活動の補助をする。）</p> <p>■避難所生活において、自分が貢献できることを考えることができる。（話し合い、ワークシート）</p>
	<p>○発表方法について説明を聞き他己紹介の準備をする。</p> <p>○班の中で他己紹介を行う。</p>	<p>◎事前に決めたペア同士で発表原稿を作らせる。（T2、T3は原稿作りの補助をする。）</p> <p>◎お互いに質問し合い、相手の意図をしっかりと理解するように声を掛ける。</p>

4 時間目 (各教室)	展開 2	<p>○班ごとに発表を行い、その後質疑応答をする。 (1人 30秒+20秒質問) ×6班</p>  <p>○T2、T3から全体総括を聞く。</p>	<p>◎T2、T3が教室に1人ずつ入る。</p> <p>◎事前(前時)に決めた質問役が質問を行う。</p>  <p>◎主体的な活動だったことを称賛する。</p>
	まとめ	<p>○本時の活動を振り返り、ワークシートに学習したことをまとめる。</p>	<p>◎「防災や避難に関する考え方の変化」や、「できるようになった方が良かったこと」を、記入するように促す。</p> <p>■地域防災のために自分ができることを考える。 (ワークシート)</p>

生徒の感想

- ・一人一人の得意なことをボランティアに活かせることが分かり、自分のやるべきことを考えることが大切だと思った。
- ・被災したとき自分に何ができて、何を頑張らなければならないかということを考えて良かった。
- ・今まで災害についてあまり考えたことはなかったけれど、考えてみるとすごく大変だと気付いた。今までうわべでしか考えなかったけれど、考えることが大切な事だと思った。
- ・自分にできることが、他の人に役立つことだとわかった。
- ・自分の長所を探してそれを被災地のボランティアに活かすということを考えてことが無かった。活動を通して自分でもできることがあると分かり嬉しかった。
- ・地震だけを考え、大雨などの土砂災害をあまり考えていなかったけど、これからは考えてできることをしようと思った。

生徒の変容

- ・ボランティアとして何をすればよいかわからない生徒が多くいた。教員からの呼びかけで「自分にできること」や「自分が普段からやっていること」がボランティアになるということを伝えたところ、話し合いが活発になり、「できますゼッケン」に自分ができることを記入できるようになった生徒が多くなった。生徒の中には、将来の夢に対する想いがより強くなったり、人助けになる仕事に就きたいと考えたりする生徒も見られた。
- ・被災地や避難所において中学生が役立つのか心配に思っていた生徒もいたが、活動を通して自分でもできることに気付き、ボランティア活動に対して意欲的になれた生徒もいた。また、発災時には大人には発想しにくい「避難所の人を笑顔にしたい」といった考え方をする生徒を見取ることもできた。
- ・「できますゼッケン」に「掃除ができます」「荷物を運べます」など書いた生徒もいたが、「トイレ掃除は?」「ずっと運べるか?」などといった問い掛けを通して、改めて仕事やボランティアについて深く考える姿も見られ、地域防災への意識の向上が感じられた。

「避難所では、どのような共助ができるだろうか。」避難所の設営体験による事例

災害

特別支援学校高等部 第2, 3学年 総合的な学習の時間

授業づくりのポイント

- これまで学んできた、発災時の対応（自らの命を守る行動）を再確認し、行動の意味や安全について学習を深める。また、発災の状況から安全な避難経路を自分で判断でき、安全かつ迅速に行動できる力の習得を目指す。
- 発災時の本校の役割である災害時帰宅支援ステーション・二次避難所（福祉避難所）での仮設トイレの設営の学習を行うことで、人のためにできることがあることを知る。また協力することの大切さを学び、災害時の自助と共助について学習を深める。

単元について

1 題材名 「自分の命を守る。そして、自分が人のためにできること。」

2 目標

Ⅲ-2 地震災害時の安全

地震発生時の危険と適切な対処について理解し、安全な行動ができるようにする。

Ⅲ-6 避難所の役割と貢献

災害発生時における避難所の役割とそこでの生活を理解し、自分にできることを実行しようとする。

3 教材化の視点

今後、東京では、首都直下地震が発生する確率が高いと予想されている。そのため、自分で自分の身を守るための方法を、繰り返しの訓練で身に付け、危険を回避し安全な行動がとれるようにならなければならない。これまでの教育の成果で、避難訓練など集団における発災時の対応については定着してきているが、さらに自分で判断する力の習得が必要であると考えた。自分の命を守った（自助）後、人のために行動できる力（共助）を身に付けることで、命の大切さや安全に対する意識が更に高まり、社会の役割を担える力の習得につながっていくと考えた。

指導計画（2時間扱い）

時間	○主な学習活動	◎安全教育の視点に立った留意点
1	○地震や火災発生を想定した避難訓練を通して、被災した際の身の守り方や緊急時の行動を学ぶ。	◎第一に自分の命を守ることを意識させ、そのための行動が身に付くように指導する。
避難訓練	○様々な状況を想定した避難訓練を繰り返し行い、身の守り方や安全な避難の仕方を学ぶ。（地震発生時刻、火災発生場所、事前周知の有無等）	◎避難する際に必要な物（ヘルメットなど）の着脱の訓練や、安全な避難経路の確認を繰り返し自助の力を高める。
2	○仮設トイレの設営を体験する。 ○避難所生活で自分ができていることを考える。	◎大規模災害発生時には、人と協力することが大切であることに気付かせ、自分も積極的に人のために貢献しようという態度を育む。

指導事例（第2時／2時間）

1 ねらい

- ・自分の命を守る行動の意味や理由を知り、自分を守る方法を身に付ける。
- ・危険について判断し、安全な避難経路を自分で選択する。
- ・仮設トイレの設営を体験することで、自分にできる共助の方法を考える。

2 ポイント

- ・避難訓練の事後指導を丁寧に行い、自分の命を守るための行動について考えさせる。
- ・仮設トイレ設営体験から避難所生活のイメージをもたせ、人と協力することの大切さや、人のために貢献しようとする態度を育む。

3 指導の実際

	○主な学習活動	◎支援・留意点 ■評価（評価方法）
避難訓練	<ul style="list-style-type: none"> ○昼食後に震度4の地震が発生した状況を想定した訓練を行い、その場で身を守るための基本行動をとる。 ○自分の命を守るための行動を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎生徒が様々な場所にいる時間帯のため、教員は学年・学級の枠を超えた臨機応変な対応を心掛ける。 ◎「頭を守るための行動」、「安全な場所」、「避難行動」、「避難経路」について確認する。
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の命を守ることができた後の行動について、避難所生活を示した写真をもとに考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎災害時は二次避難所（福祉避難所）として開設される学校の役割について説明し、生徒として行動できることを考えるよう促す。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">避難所では、どのような共助ができるだろうか。</div>	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○体育館で仮設トイレの設営について学ぶ。 ・グループに分かれ、設営体験をする。 ・実際に使用する際に必要となること、困ることなどについて意見交換する。 ・片付ける。  <p style="text-align: center;">仮設トイレの設営体験</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎「災害用トイレの使い方」を活用し、説明の仕方や注意すべきことを理解させる。 ◎実際にトイレが断水し使用できなくなった状況を示した資料を準備して説明する。  <p style="text-align: center;">避難訓練時の写真</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○授業を振り返り、感想を伝え合ったり、実際の避難所生活では、自分に何ができるのか発表したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ■避難所で、自分たちにできることを具体的に考えることができる。（発表）

生徒の感想

- ・簡易トイレの設営は、説明を聞けば何とか進められますが、実際に地震が起こると慌ててしまい、うまく行動できないかもしれません。あらかじめ体験しておけば、いざという時に落ち着いて行動できると思いました。

生徒の変容

- ・避難訓練の事前・事後指導を計画的に行うことにより、基本行動の意味を理解して、自ら判断して避難行動をとろうとする姿が見られるようになった。
- ・災害時帰宅支援ステーションや二次避難所（福祉避難所）の役割を理解し、仮設トイレの設営体験を通して、自信をもって人のために貢献しようという意欲が高まった。